

風の便り

Vol.3 No.1(通刊37号)

今でも忘れることは出来ません...

2011年3月11日14時46分、宮城県の牡鹿半島沖でマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、これまでの予想をはるかに超える大津波が三陸地方の太平洋岸を襲い、街、生活、命を奪い去り、人々の胸に消すことのできない傷痕を残しました。これが東日本大震災です。

この震災では、多くの人から被災者の方々や被災地にさまざまな支援が行われました。震災当時のガバナー会では被災遺児に対する教育支援のプログラムが提案されました。亡くなった方や行方不明の方は2万7千人を超えています。そして、震災直後には両親を亡くした子どもは岩手、宮城、福島で241人、片方の親をなくした子どもは1,483人、合わせて1,724人に上ると推定されました。紆余曲折がありましたが、2011年11月にロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会が組織され、「ロータリー希望の風奨学金」の事業が始まりました。2017年3月には「ロータリー希望の風奨学金」の支援により、大学や専門学校を卒業し、43人が社会人として新たな道を歩き始めています。プログラム開始以来の卒業生は163人を数えました。

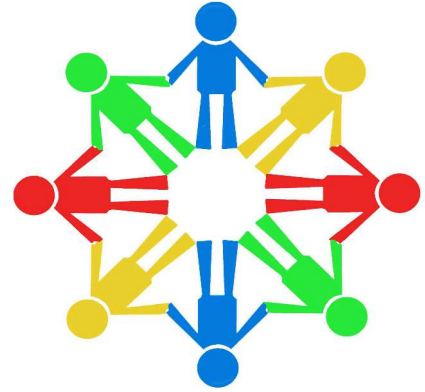
しかし、月日の経過につれて薄れていく東日本大震災の記憶と共に、支援のあり方に疑問を投げかける人もおられます。それでも、奨学生や保護者の方々から、お礼の電話やお手紙を頂くと、身に余る思いを感じます。そして、ある時、長く復興支援に携わってこられたロータリアンの方から「人を作る、人を育てるというのも支援ではないかと思うようになった」と聞かされました。まさに、私たちが目指している「ロータリー希望の風奨学金」の事業がこれではないかと確信出来ました。

「ロータリー希望の風奨学金」は、東日本大震災で両親あるいは片親を失った「遺児」で大学や専門学校に学ぶ者に、入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めません。この奨学金はロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の運営する教育支援プログラムです。

私たちの「ロータリー希望の風奨学金」プログラムは被災遺児やご家族にそっと寄り添って、静かに「希望の風」を送り続ける奉仕活動です。全ての遺児が進学の希望をかなえることを目標に粘り強く続けていきます。「風の便り」は、ご支援くださる多くのロータリアンの方々に、私達の活動をご理解いただけるよう、不定期ではありますが、皆様にお届けいたしております。今後とも、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

ロータリアンは東日本大震災を決して忘れません

ロータリー希望の風奨学金 被災遺児に教育資金を



「ロータリー希望の風奨学金」は2011年3月11日に発生した東日本大震災で両親や片親を亡くした被災遺児やご家族にそっと寄り添って、「希望の風」を送り続ける教育支援を目的としてロータリークラブが2011年11月から立ち上げました。全ての遺児が進学の希望をかなえられるよう皆様のご支援をお願い致します。

Rotary  ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会